

令和8年度第1回伊丹市学校教育審議会（幼児教育部会）
議事録（要旨）

1 日 時 令和8年6月5日（金）16時25分～17時05分

2 場 所 伊丹市役所 1階 105会議室

3 出席者

（委員）ト田 真一郎（大阪常磐会大学短期大学部 教授）

岡田 朱世（武庫川女子大学 講師）

今村 貴子（市立おぎの幼稚園 園長）

川阪 由紀（市立神津こども園 園長）

石川 雄巨（いずみ幼稚園 園長）

中谷 恭代（荻野クレヨン保育園 園長）

山内 彩乃（市立おぎの幼稚園 P T A）

村瀬 友実（市民公募委員）

（事務局）伊丹市教育長

伊丹市教育委員会事務局こども未来部 部長

伊丹市教育委員会事務局こども未来部幼児教育保育室 室長

伊丹市教育委員会事務局こども未来部幼児教育保育室(教育保育担当)主幹兼未来教育プロジェクト主幹

伊丹市教育委員会事務局こども未来部幼児教育保育室(幼保連携担当)主幹兼未来教育プロジェクト主幹

（傍 聴）1名

4 次 第

① 開 会

② 部会長の選出

③ 議 事

5 議 題

「幼児教育部会の審議内容について」（議事録別紙）

6 議事録（要旨）

<議題説明> 事務局から資料に基づき説明

<議 事>

【部会長】

ありがとうございました。事務局からご説明いただきました。只今のご説明に対してご質問などはございますか。では、お一人ずつご意見をいただけたらと思います。

【委員 A】

幼児教育のあり方というところでは、社会が変化していく中で保育も変わらざるを得ないというところはあるかと思います。

ただ、伊丹市でこれまで積み重ねてきたものは大事にしつつ、それをどう伝え発展させるかが重要だと思います。その中で、特別支援に限らず、一人ひとりの子どもが健やかに育つ保育を考えることが大事だと思います。

適正規模については、例えば子どもにどんな経験をさせたいか、それができる職員配置があるか、先生同士が多様な視点から保育について議論できる職員集団の規模であるか、といった視点が重要だと思います。

【部会長】

ありがとうございます。議論を進めていくうえで、重要な視点について、かなり整理してお話しただけたと思います。

【委員 B】

伊丹市の幼児教育を考えるときに、全体会で話があったように、幼児教育は縦と横で見ることが大事だと思っています。

横で見ることを考えると、今の拠点、地域で分かれている部分がありますが、みんなで特別支援のことに取り組んでいたり、研究のことを取り組んでいたりしています。

また、人権のこととか、保健のこととか、そういうことも横の広がりで行っています。

縦で見ることを考えると、近隣の小学校や中学校とも繋がりながら、幼児教育が就学後の教育につながるとしています。

さらに、多様な家庭が増える中で、人生設計にフィットする施設選択ができることが大切だと思いました。

【部会長】

ありがとうございます。本当に現場で取り組んでくださっている中身についてもお話し

いただきました。

人生設計にフィットするという言葉は、なるほどと思って聞かせていただきました。

【委員 C】

私もこの資料に基づいて過去の流れを考えたときに、ちょうど私も 30 年以上やっていますが、この 20 年でも子どもを取り巻く環境は大きく変わりました。

コロナや災害、AI、ICT の進展など、子どもたちが将来生きる社会を考える必要があると思っています。

その中で乳幼児期にどんな力をつけるかが重要で、保護者や地域と一緒に考えていくことが大切だと思います。そのためにも、適正配置というのが重要なポイントになってくるのかなと思います。

【部会長】

ありがとうございます。本当に今言っていたように、これからの時代を生きていく子どもたちに、どんな力が必要で、どんな力を育てていくのかということを踏まえながらの議論ができたと思います。

【委員 D】

まず教育のあり方ですが、平成 26 年の時と比較しても、国の基準ですとか、教育要領ですとか、そのあたりが変わって、支援が必要なお子さんを含めて、対応する努力が現場で続けられているのかなと思います。

もう一方、一部地域を除き、人口減少は緩やかとは言えない状況だと思います。

子どもたちは少人数だけでうまくやっていけるかということ、やはり一定の規模がないと子どもたちが社会性を獲得して、非認知能力も獲得していくということ言えば、一定の規模は必要なのだろうなというのは思います。

その中で、どういうものを目指すかということになるのですが、すべての施設が納得できる方針を示すことが重要だと思います。

【部会長】

ありがとうございます。全ての施設だというのは本当に重要な視点だと思いますし、その中で、規模の問題というのと、子どもの育ちの問題と合わせて、いろいろ議論できたらと思いますので、よろしく願いいたします。

【委員 E】

私は、伊丹でもう 20 数年保育をしています。

保育園の子どもだけでなく家庭全体を取り巻く環境が大きく変わっており、そこへの配

慮もすごく大事になってきたと思います。

伊丹市の中で、子どもたちがどこの園に行っても、どこの学校に行っても、自分が好きと思えて、自尊感情を持ちながら、みんなが幸せに生きていってほしいという思いがあります。

【部会長】

ありがとうございます。本当に現場の声をもとにしながら、日々接している子どもさんや保護者の方の姿からいろいろご意見いただけるのではないかと思います。

【委員 F】

私は小学校の子どもが二人、就学前の子どもが一人の3児の母をしています。

この伊丹に住むようになって13年、14年目になりますが、伊丹市の支援の手厚さを感じています。

まだまだ私の中でこうしてほしいとか、ああしてほしいというビジョンがあるわけではありませんが、子どもの成長を見ながらの意見として、お話させていただければと思います。

【部会長】

本当に保護者の、当事者からの言葉というのはすごく大事なので、ぜひいろいろお感じになられたところをお聞かせいただけたらと思います。

【委員 G】

私は小学生の子どもを持つ保護者でもあります。児童発達支援事業に関わる会社に勤めています。

そういう民間の、私たちみたいな会社も連携しながら入っていけるような幼児教育というのをさせていただいたら、私たちも助けられるところがあると思います。

会社では、小学校を訪問して、その対象のお子さんを見たりとか、幼稚園、保育所も見に行かせていただく機会もありまして、いろいろな場面を見ることができたり、先生たちと話す機会もあつたりします。発達支援の立場から、施設間連携や情報共有が重要だと感じています。

【部会長】

保護者の立場もおありですし、その事業の中でやられている方というのもおありだと思いますし、ぜひそのあたりの連携ということも、これから大きな課題にもなっていくだろうなと思います。

そのあたりも含めて、総合的に全ての伊丹の子どもたちにとっていいような仕組みとい

うのができればという形で議論できたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど少し申し上げましたけれど、本当に全ての伊丹市の子どもたちが、これからの人生をより豊かに生きていけるような、保護者の方も含め、それを一緒に進んで行けるような仕組みってというのはどうあるべきなのかというようなことを議論しながら、適正規模、適正配置の話にも繋げていけたらと思います。そして、幼児教育の内容についてもいろいろ議論をしていけたらと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。